

# 経済・金融 フラッシュ

## 企業物価指数(2014年6月) ～原油高を背景に2ヵ月連続で上昇幅拡大

経済研究部 研究員 岡 圭佑

TEL:03-3512-1835 E-mail: koka@nli-research.co.jp

### 1. 原油高を背景に2ヵ月連続で上昇幅拡大

7月10日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2014年6月の国内企業物価指数は前年比4.6%となった。事前の市場予想(QUICK集計:前年比4.5%)を上回り、上昇幅は5月の同4.4%から拡大した。消費税分を除いた6月の企業物価は、前年比1.7%と5月の同1.6%から0.1%上昇した。

消費税分を除いた企業物価を寄与度別にみると、機械類が前年比▲0.1% (5月:同▲0.2%)、鉄鋼・建材関連が前年比0.3% (5月:同0.2%)、素材(その他)が前年比0.1% (5月:同0.0%)、為替・海外市況連動型が前年比0.7% (5月:0.6%)、電力・都市ガス・水道が前年比0.6% (5月:同0.7%)、その他が前年比0.1% (5月:同0.1%)となっている。

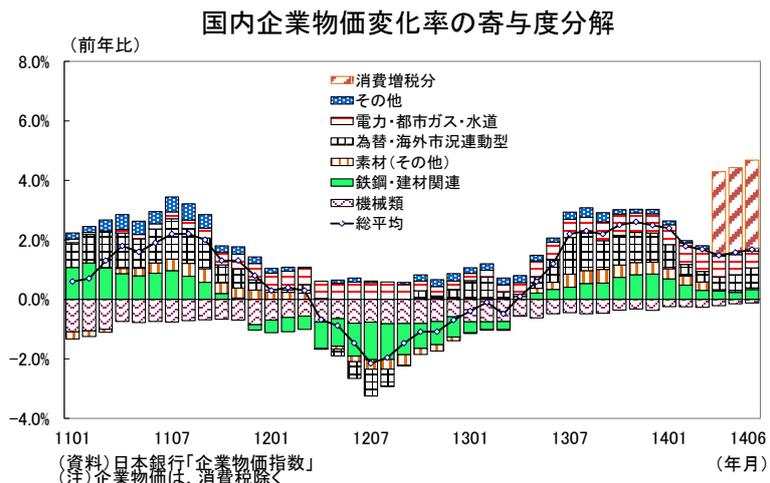
6月の企業物価が上昇幅を拡大

したのは、機械類、鉄鋼・建材関連、素材(その他)、為替・海外市況連動型の寄与度が前月より高まったためである。イラク情勢の悪化を主因とした原油高が、素材(その他)、為替・海外市況連動型の寄与度を押し上げた。また、企業の設備投資の回復を反映し、機械類の寄与度のマイナス幅が縮小した。

足元の円安基調は一巡しているが、それ以上に原油価格の高止まりが為替・海外市況連動型の寄与度を押し上げ、企業物価は緩やかに上昇することが見込まれる。

### 2. 輸入物価は上昇基調へ

6月の輸入物価(円ベース)は、前年比4.2%と5月の同0.7%から上昇幅が拡大し、前月比0.2%と5月の同▲0.6%から上昇に転じた。

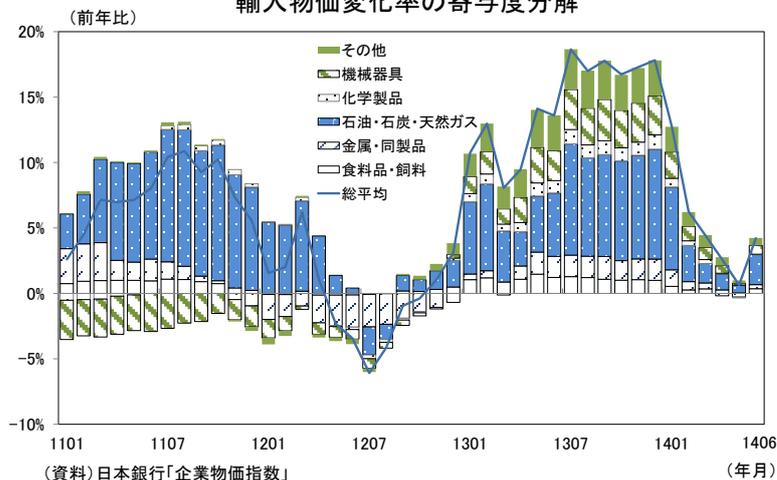


6月の輸入物価を寄与度別にみると、食料品・飼料が前年比0.4%（5月：同0.0%）、金属・同製品が前年比0.3%（5月：同▲0.3%）、石油・石炭・天然ガスが前年比2.3%（5月：同0.6%）、化学製品が前年比0.0%、（5月：同▲0.1%）、機械器具<sup>1</sup>が前年比0.7%（5月：同0.1%）、その他<sup>2</sup>が前年比0.6%（5月：同0.2%）となっている。足元で円安基調は一巡しているが、それ以上に原油高による物価の押し上げがプラスに寄与した。

石油・石炭・天然ガスの寄与度はここ数ヵ月縮小傾向にあったが、原油高を主因とした寄与度の上昇が輸入物価（前年比）を押し上げた。また、設備投資の回復を反映し、機械器具の寄与度が上昇したことも輸入物価（前年比）上昇の一因となった。

原油価格の高止まりを背景に、輸入物価は引き続き緩やかな上昇基調を続けることが見込まれる。ただし、地政学リスクの低下を背景に原油価格が落ち着きを取り戻した場合、輸入物価は鈍化する可能性がある。

輸入物価変化率の寄与度分解

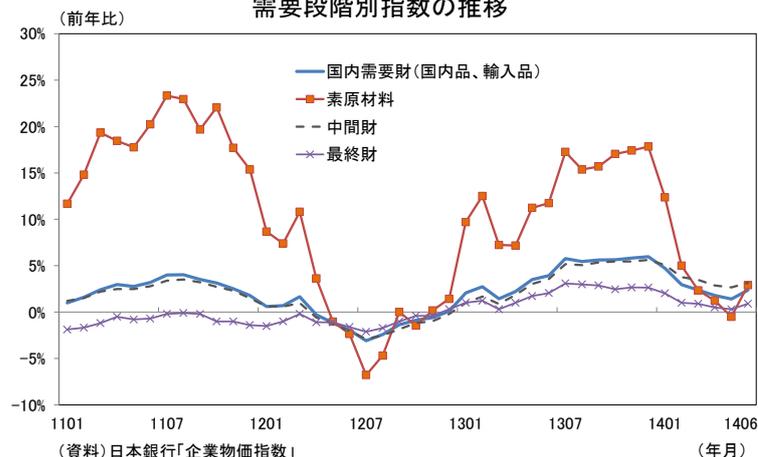


### 3. 最終財価格は緩やかな上昇

需要段階別指数（消費税除く、国内品+輸入品）をみると、国内需要財価格は円安効果の一巡などから伸び率の鈍化傾向が続いていたが、6月は上昇幅が再び拡大した。6月の需要段階別指数を項目別にみると、素原材料が前年比2.9%（5月：同▲0.5%）、中間材が前年比3.1%（5月：同2.7%）、最終財が前年比0.9%（5月：同0.3%）といずれも5月から上昇率が高まった。

原油高を主因とした素原材料価格の上昇が中間財価格や最終財価格の物価上昇に徐々に波及している。

需要段階別指数の推移



<sup>1</sup> 機械器具：はん用・生産用・業務用機器、電気・電子機器、輸送用機器

<sup>2</sup> 繊維品、木材・同製品、その他産品・製品